



幹事長：門馬和夫 (左) 代表：太田淳一 (中) 事務局長：但野謙介 (右)

小高の復興拠点施設整備計画の経過についてご説明します。

9月議会で小高区復興拠点施設整備事業の実施設計費や用地買収費などの予算が提出されましたが、用地買収費などの予算化は認めるものの、実施設計費は認めないという議決になりました。「なぜ議会で小高の復興を遅らせるのか。小高はどうでもいいのか」というご意見もある中で、このような議決となった背景について、今一度ご説明したいと思います。

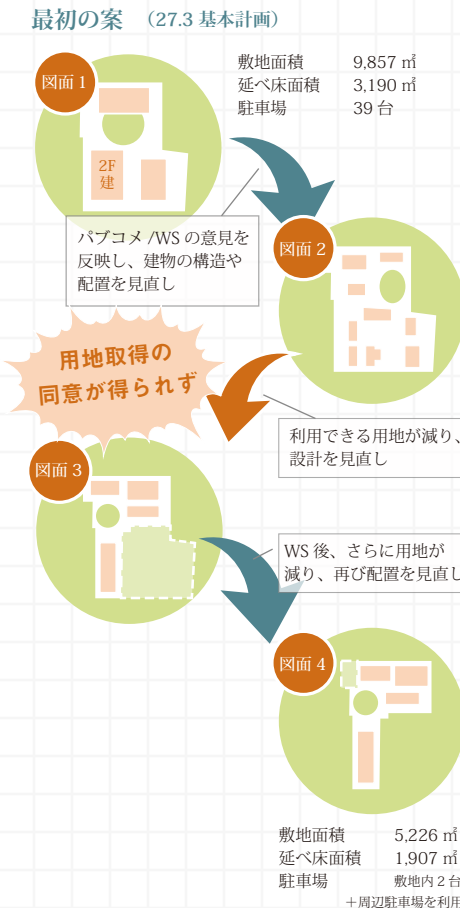
A. 当初の計画 (南相馬市小高区市街地整備基本計画)

概要	機能
敷地面積： 9,857 m ²	地域支え合い機能 多世代交流サロン、会議室、ワークコーナー等
延床面積： 3,190 m ²	子育て支援機能 屋内遊び場、相談室等
事業費： 約30億円	子供の居場所づくり 屋内遊び場、学習室、レクリエーション施設等
維持費： 6千万円/年	健康増進機能 入浴施設、トレーニングルーム等
坪単価： 191万円/坪	歴史・文化・教育機能 展示室
想定利用者数： 200人/日	商業機能 店舗、チャレンジショップ、飲食店
駐車場： 39台	
約5000人が帰還する試算で ひとりあたり年間12,000円の維持費	

基本計画の市街地ゾーニングにおける「多世代交流」と「商業活性化 (の一部)」を担う施設として位置づけられ、ニーズの高い機能を集約することで街の利便性を高め、多くの人を呼び込むことで交流を促し、賑わいと活気を創出することができる」となっています。



B. 設計内容の変更の変遷



当初の基本計画の案から、ワークショップなどで住民意見が反映され、変更が加えられていきました。その途中で用地面積が減少するなどの要因もあり、規模や機能が縮小されていくことになりました。

C. 議決した内容と理由

当初の原案からは用地取得の問題などがあったことで変更が重なり、当初想定していた機能と原案が大きく異なるものとなりました。

用地面積が減少した結果、機能が削られるのは仕方ありませんが、その取捨選択には疑問が残ります。特に、

- ・子どもの遊び場施設が、他の区の遊び場とくらべて非常に小さくなってしまった
- ・駐車場が用地の中になくなってしまった

ことは再検討し、十分に議論しなおすべきと思います。

しかし、市は現状案で急いで通すことが目的化するあまりか、これらの懸念事項について十分な検討や方針の再設計がなされないまま予算案が提出されることとなりました。

結果として提出された案は、
「見た目上、数字のつじつまをあわせただけ」
「本当にその機能が必要か十分に検討できていない」

と判断せざるを得ないもので、そのため今回の決議においては、(施設の建設はすべきということで用地取得は始めていくべきだが、このままの計画ではなく、内容設計は見直す・最終確認すべきという意味で)「実施設計費を認めない」という議決に至りました。

D. 最終案の内容

概要	機能
敷地面積： 5,226 m ²	地域支え合い機能 多世代交流サロン、会議室、ワークコーナー等
延床面積： 1,907 m ²	子育て支援機能 屋内遊び場、相談室等
事業費： 約19億円	子供の居場所づくり 屋内遊び場、学習室、レクリエーション施設等
維持費： 3,500万円/年	健康増進機能 入浴施設、トレーニングルーム等 (交流サロン)
坪単価： 256万円/坪	歴史・文化・教育機能 展示室
想定利用者数： 241人/日	商業機能 店舗、チャレンジショップ、飲食店 (生鮮・マルシェ)
駐車場： 2台	宿泊機能

※ 青字は除外した機能
黄色は大幅に縮小された機能
赤字は追加した機能

「小高復興拠点整備事業」
9月議会での
主要なやり取りを
まとめました。

尚友会の考え

小高を復興させていこうという想いは同じです。

しかし、この先の未来にかえて「負の遺産」を残してしまわないためにも、一度立ち止まり、施設内容やその費用対効果を再確認すべきと考えます。

「まとめて整備」にこだわりすぎず、素早く整備が必要なものや、将来とも確実に有用な機能や施設を洗い出し、ベストなタイミングで整備・利用できるように、引き続き議論していきます。

維持費用について

ランニングコストはこれまで
6,700万円／年だったが、
今回は3,500万円／年。根拠は？

答 面積が同等の原町生涯学習センターを参考とした。風呂がなくなったため電気代、光熱水費で1,100万円減、人件費も12人→8人に減し、1,100万円程減額になった。

こどもの遊び場について

こどもの遊び場が狭すぎる。
以前に指摘した、小学校の近くの土地は
調査、交渉したのか？

答 小学校近くの3カ所の土地の地権者と面積は調べたが、場所を変更することはできないので交渉はしていない。

機能の取捨選択について

取得できる用地面積が53%に減ったので、
入浴施設、生鮮食料品店舗、駐車場が
なくなったのか。

答 入浴施設は面積が縮小したので縮小した。生鮮食料品は総合的に勘案した。駐車場は身体障がい者用2台でありその他は周辺の駐車場を利用する。

建設価格について

民間はともかく、同じ木造でも
鹿島児童クラブ建設費145万円／坪
などと比べ、本計画は255.8万円／坪。
何が高いのか？

答 最高水準の部材を使っているように判断しているが、このあと実施設計の中で部材を平準化、落とせるということで、相当下がってくると思っている。こういう精査は今後必要と感じている。

利用者数について

基本計画の利用者は200人／日に対し、
入浴施設(60人)や食料品の店舗が
減ったが、241人／日と増えている。
その理由は？

答 241人／日は、4,722人が小高に帰還するとの推計値から積み上げた。200人の算定根拠はきっちりした積み上げではなかった。

当初の設計とのずれについて

入浴施設がなくなる一方、
一時宿泊者の機能が付加されているなど、
当初認めた基本設計とはかけ離れた。

答 人が集まって生き生きして生活できるよう、外部と交流できるような施設の仕組みづくりをしてゆくべきと思っている。

○老人福祉センター整備事業

文教福祉常任委員会において、原町区に老人福祉センターを新築するための調査や基本設計の予算について審査が行われました。審査の中では、

- ・市内の高齢者人口は団塊の世代が高齢者となりはじめたことから、人数のピークを迎えており、今後緩やかに減少すること
- ・震災による生活環境の変化により、現役世代の健康状態が悪化する傾向にある
- ・糖尿病予備軍等が増加傾向にあるなど、現役世代の健康増進が大きな課題であること
- ・将来的な人口減少を踏まえて、公共施設の集約等が必要になること
- ・国保会計において多額の繰越金が発生しており、今後、市では健康増進のソフト事業の予算に充てるという答弁とどのように連動させていくかが示されていないことなどが指摘されました。

これを受けて、委員会の全会一致で、広い世代を対象とした健康増進の機能を整備すること

・将来的に他の公共施設と併設可能な施設を整備し、老朽化した公共施設の統合を視野に入れること

・上記の点を踏まえ、複合施設の整備可能な用地を選定すること

について、委員会決議という形で採択されました。委員会による全会一致の決議は異例のこと、会派をこえて議会として政策形成にあたる新たな一歩となりました。

ご質問・ご意見への報告

8月に開催しました会派報告会でのご質問・ご意見等について、政務調査を行いました。

○高速IC接続道路について

高速ICアクセス道路(都市計画道路下高平北長野線)について、現状報告いたします。10月11日、議会全員協議会において「県道原町川俣線の交通量は1.5〜1.7倍増加している。今後交通量解析を行う。アクセス道路により中心部の空洞化の懸念されることから、南相馬市とよく相談していく。」と福島県土木部次長から報告がありました。

○市道南町牛来線の舗装について

県立東ヶ丘公園内、市博物館北側公園脇の未舗装道路について、舗装工事はいつ行われるのかとご質問がありました。

この道路工事については、過去2回入札不調(工事を請け負う業者がいなかった)でしたが、先ごろ、ようやく工事を請け負う業者が決まりました。

「公園除染工事が済み次第着工する。工事期間は年度内を目標としているが、除染の進み具合で遅れる可能性がある。」との相双建設事務所の回答でした。

○尚友会の政務活動費について

平成27年度の尚友会の政務活動費についてご報告します。

尚友会 政務活動費の内訳

収入	570,622 円
1名あたり月 15,000 円 (年額 180,000 円) × 3名	540,000 円
受取利息	62 円
会派負担金 (自己負担)	30,560 円
支出	570,622 円
会報誌制作費 (16,800 世帯に年4回新聞折込で配布)	568,822 円
議会報告会の会場使用費	1,800 円

その他会派では、8月末に復興庁など国の機関7か所で調査活動を行いました。その活動費用は全額自己負担です。

議会報告会ご案内

11月22日(火)18時～
高平生涯学習センター
(原町区下高平)

11月23日(水)10時～
市民情報交流センター 中会議室
(南相馬市立中央図書館隣)

11月23日(水)14時30分～
西部コミュニティセンター
(鹿島区小池)